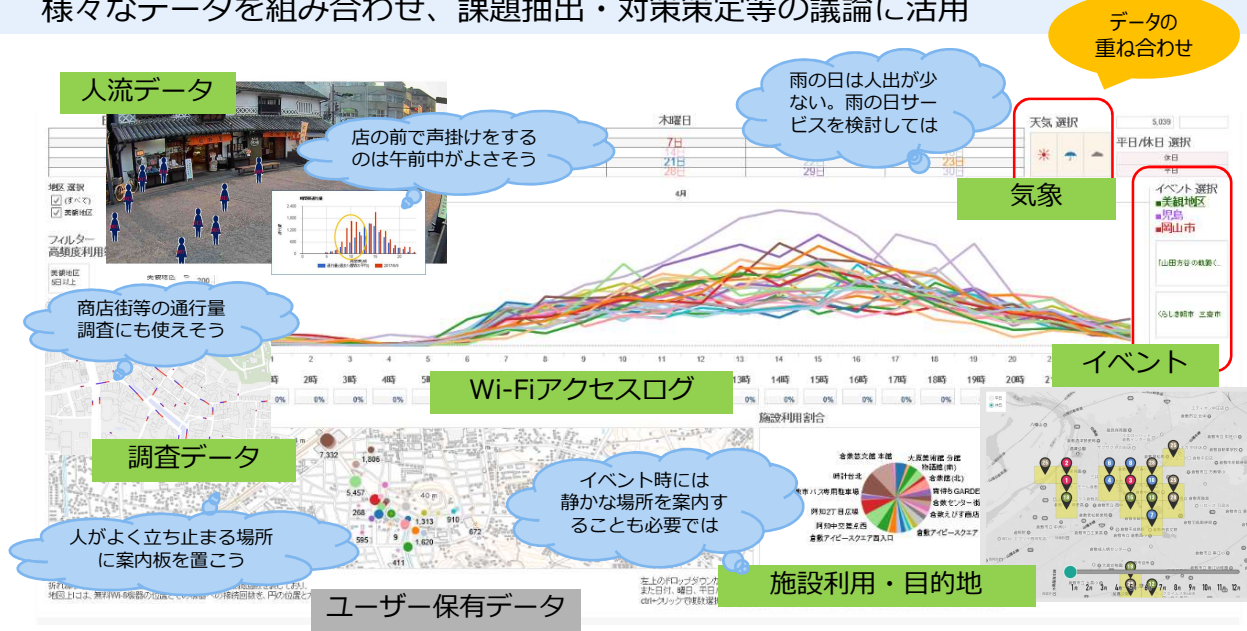


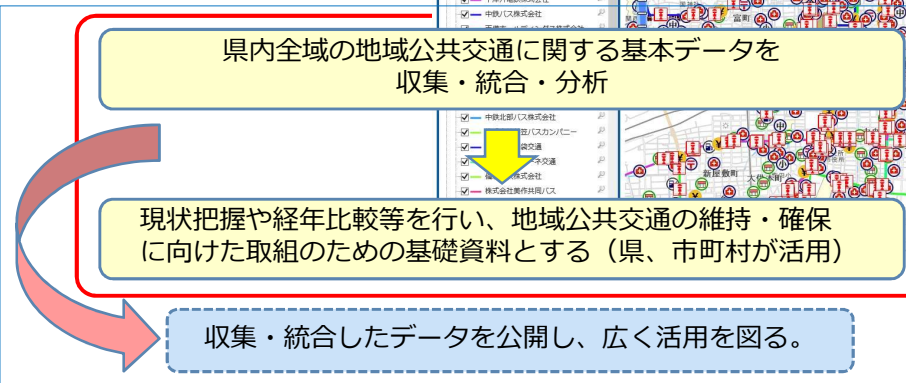
様々なデータを組み合わせ、課題抽出・対策策定等の議論に活用



COPYRIGHT © data CRADLE

データの広域的活用例：公共交通GISの活用

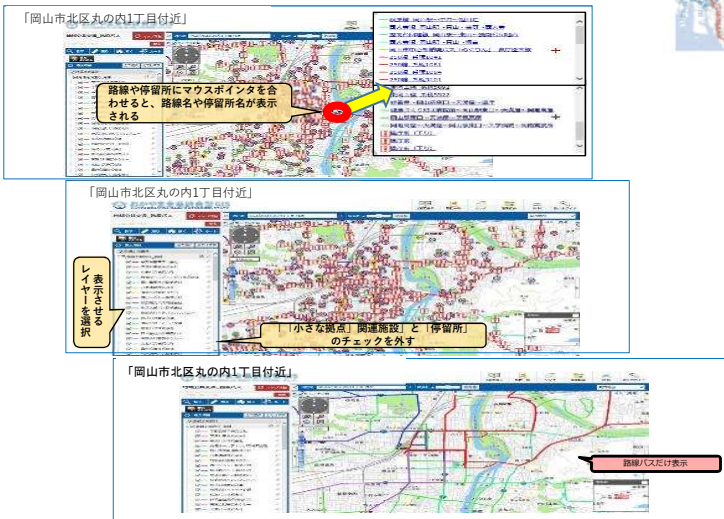
- 活用の代表的な分野
- ・観光施策分野
  - ・交通施策分野



(参考) 全県統合GISによる公共交通オープンデータ

「おかやま全県統合GIS」を「おかやまオープンデータカタログ」で公開

県内全域の地域公共交通に関する基本データを  
収集・統合・分析 → 公開し、広く活用



異なる出所データの結合例：被災者生活支援ポータルサイト「まびケア」

防災情報サービスチャレンジ連携 UDC2018 データ部門金賞

避難所情報充実と 避難計画支援システムの構築 これからの「まびケア」

COG2018 連携体制賞 ハーバード大学特別イノベーション賞

岡山県倉敷市 × 「まびケア」運用チーム

平成30年7月豪雨 真備町地区浸水

倉敷市真備町地区の罹災状況  
 ・浸水 51人  
 ・住居被害 4,646棟  
 ・大規模半壊 453棟  
 ・半壊 392棟

現場での罹災情報  
 ・ロコミ情報  
 ・避難所の指示板

ボランティアによる生活支援情報提供  
 ボランティアが現場で情報収集～投稿

まびケア  
 被災者生活支援ポータルサイト

ボランティアチーム（「まびケア」チーム）が現場で収集した保健医療（病院、薬局など）施設や飲食店、コンビニエンスストアの開店・営業状況、トイレ、お風呂などの緊急支援サービスなど、「くらしと健康」に必要な情報を収集、タイムリーにデータ化して提供

<https://mabi-care.com/>

平成30年7月豪雨発災後、倉敷市データ分析サロン（一般社団法人データクレイドル運営）を活動拠点としてボランティアチーム（「まびケア」チーム）を立ち上げ、現地で収集した保健医療（病院、薬局など）施設や飲食店、コンビニエンスストアの開店・営業状況、トイレ、お風呂などの緊急支援サービスなど、「くらしと健康」に必要な情報を収集、タイムリーにデータ化して提供した。

<https://mabi-care.com/>

COG（チャレンジオープンガバナンス）2018ハーバード大学特別イノベーション賞を受賞

UDC（アーバンデータチャレンジ）2018データ部門金賞受賞

## データの公開と活用例：AI/IoTの地域実装

### 倉敷市による高梁川流域圏データ活用推進事業

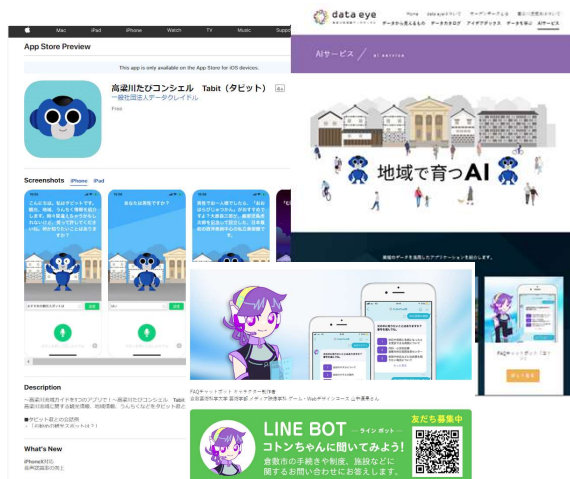
H28年度～ IoTデータ収集～活用  
「倉敷美観地区人流NOW」  
知識ベース構築～AIアプリケーション開発



### サービス提供・その他の活動

H29年度～ 人流解析サービス提供

### 高梁川流域圏データポータル「AIサービス」



COPYRIGHT © data CRADLE

## 地域課題解決に向けたスマートタウンへの期待

出典：Unisys「技報」Vol.38No.3 新発「地域課題解決に向けたスマートタウンへの期待」から

様々な要素が絡み合い複雑化した地域課題が顕在化し、地域社会を悩ませている。潜在的にある地域課題の要因を早期に把握し、対策を講じることにより回避或いは改善し、将来に向けての新しい道筋を見出すことが可能となる。

その鍵は、人とモノと技術を繋ぐ様々なデータであり、データ利活用によりもたらされる様々な仕組みやサービスの創出、新しい環境を享受できる社会(スマートタウン)である。このような社会を構築し、持続可能な地域社会を形成していくには、データを利活用する人と環境、アイデアやシステムを支える技術が重要となる。

### ➤ 地域課題の顕在化

### ➤ 地域課題解決への道筋

### ➤ 地域課題解決の方策としてのスマートタウン

- 地域におけるデータ利活用の事例
- データ利活用とスマートタウン
- スマートタウンが対象とする分野
- スマートタウンの推進体制
- 活動の継続性

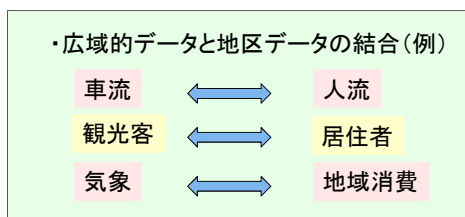
### ➤ スマートタウンのあり方

- スマートタウンを支える人
  - 人材育成の重要性
  - シビックテックの在り方
  - 人の流動性
- スマートタウンを支える環境
  - データ利活用の環境
  - データサイエンティストの活躍の場
  - サービスを受け入れる風土
- スマートタウンを支えるテクノロジー

COPYRIGHT © data CRADLE

## データの活用によるスマートシティ構想へ

- スマートシティ構想・推進におけるデータの活用
- スマートシティ構想の中で対象となる主テーマ
- テーマの解析に必要なデータ
  - マクロ的なデータの取得 ~ 広域的データを入力
  - ミクロ的なデータの取得 ~ 地域データの入手、データ取得のための調査・観測
- データの分析
  - 現状の把握、傾向、仮定への検証
- モデルの作成・シミュレーション
  - 実施計画の作成
  - 計画の実施
- モデルの検証・評価



COPYRIGHT © data CRADLE

【紹介】

### 倉敷駅周辺地区スマートシティ検討ワーキンググループ<sup>o</sup>（岡山県倉敷市）

1

○ AI/IoT技術で人と車の通行量と滞留状況をリアルタイムに把握し、駐車場および付近の渋滞予測と公共交通連携により倉敷駅周辺区域の面的な観光渋滞の対策を図る「スマート・パークアンドライド」モデルを構築する。まちなか歩きも誘導し、観光・地域活性化も狙う。

#### ■ 対象区域のビジョン

対象区域は、将来の JR 山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業も見据えた中心市街地活性化基本計画事業区域である。公共交通の利便性が高い倉敷駅周辺に都市機能がコンパクトに集積するまちづくりに取り組んでいる。

#### ■ 対象区域の課題

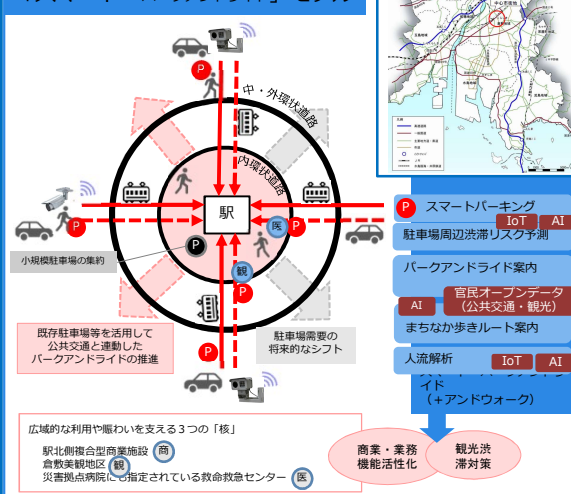
倉敷美観地区周辺の観光需要による駐車場供給量不足、駐車場を探すうろつき交通、観光渋滞が課題となっている。また、駅南側の持続力ある賑わいも課題である。

#### ■ モデル事業の取組み内容

既存駐車場等にAIカメラ、IoTセンサを設置して、駐車場満空状況、付近の交通状況、人の通行状況をリアルタイム収集し、AIを活用した渋滞リスク予測を行う。また、公共交通・観光分野の官民オープンデータを連携して、状況に応じたルート案内を行い、まちなか歩きを誘導する。

【交通・モビリティ観光・地域活性化

#### 「スマート・パークアンドライド」モデル

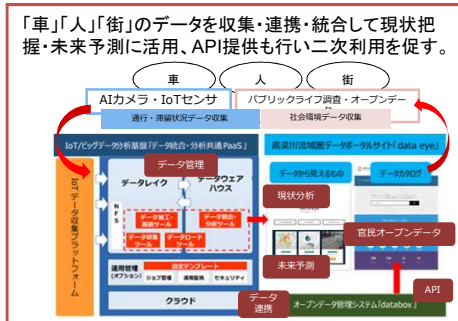


【紹介】

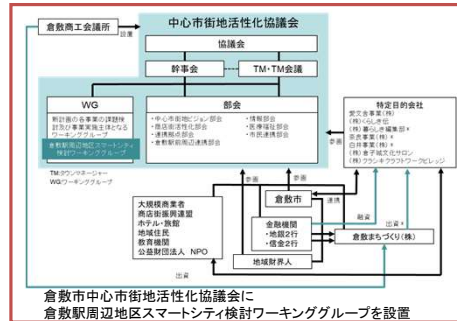
倉敷駅周辺地区スマートシティ検討ワーキンググループ(岡山県倉敷市)

2

■ データ利活用方針



■ 運営体制



■ スケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度～	備考
中心市街地活性化	中心市街地活性化基本計画事業				
オープンデータ推進 データ管理・連携基盤運用	高梁川流域 インテリジェント ICT事業	地域データ活用推進事業(仮称)			
スマートシティモデル事業(本事業)	スマート・パークアンドライドモデル構築 モデル駐車場(1箇所)整備		先行駐車場(3箇所)整備	対象駐車場(7箇所)整備	スマート・パークアンドライドサービス展開 鉄道南北市街地のつながりシミュレーション

21

21

【紹介】

倉敷駅周辺地区スマートシティ検討ワーキンググループ(岡山県倉敷市)

3

AI/IoTツールとパブリックライフ調査を組み合わせるデータ収集

AI/IoTツールとパブリックライフ調査(※)を効果的に組み合わせることで、効果的・効率的に人と車の通行状況データを収集。街路や商店街などの街の姿のデータと組み合わせることで現状分析・未来予測を行う。  
 ※パブリックライフ調査: 公共空間における人の行動を観察し、人と空間の相互作用を調べる調査



▼高梁川流域インテリジェントICT事業で整備した倉敷市美観地区人流解析・未来予測の画面



▼高梁川流域インテリジェントICT事業で整備したデータ管理・連携基盤



既存データ管理・連携環境を活用

整備済みのデータ管理・連携基盤を活用して、【交通・モビリティ】と【観光・地域活性化】という異なる分野のデータを連携・統合して、現状分析・未来予測に活用する。収集したデータは標準化し、オープンデータ(有料/無料)として公開する。

22

22